

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
クタニーセイヨウ株式会社

欄に数値またはコメントを記入

■ 使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年
■ 評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.5
Q1 室内環境			0.30			2.1
1 音環境		1.8	0.15	-	-	1.8
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	3.0	-	
2 溫熱環境		1.6	0.35	-	-	1.6
2.1 室温制御		2.2	0.50	-	-	
1 室温設定		1.0	0.38	3.0	-	
2 省エネルギー効率性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	3.0	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 激制御		-	-	-	-	
7 暫時熱空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		1.0	0.20	3.0	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.30	3.0	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		2.3	0.25	-	-	2.3
3.1 昼光利用		1.8	0.30	-	-	
1 昼光率		1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		3.0	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		1.0	0.15	-	-	
1 照度		1.0	1.00	3.0	-	
2 照度均等度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境		2.8	0.25	-	-	2.8
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-	
2 パーフェクト対策		-	-	-	-	
3 微生物対策		-	-	-	-	
4 レジオナラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		2.3	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.8
1 機能性		2.0	0.40	-	-	2.0
1.1 機能性・使いやすさ		2.6	0.60	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33	3.0	-	
3 パリアフリー計画		3.0	0.33	3.0	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.40	-	-	
1 広さ感・景観		1.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		1.0	0.33	3.0	-	
3 内装計画		1.0	0.33	3.0	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31	-	-	3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33	-	-	
1 軸体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

B以上を使用。

	2.3 運動の更新性							
	2.4 信頼性							
	1 空調・換気設備							
	2 給排水・衛生設備	自動水栓、井水を利用。						
	3 電気設備							
	4 機械・配管支持方法							
	5 通信・情報設備	光ケーブルを使用。						
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
1 階高のゆとり	階高4,200m~6,000m							
2 空間の形状・自由さ	間仕切壁を、乾式又はパーテーションで構成。							
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								
1 空調配管の更新性								
2 給排水管の更新性								
3 電気配線の更新性								
4 通信配線の更新性								
5 設備機器の更新性								
6 パックアップスペース								
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出								
2 まちなみ・景観への配慮								
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮・快適性の向上								
3.2 敷地内温熱環境の向上	隣地境界との距離を7m以上確保。空地率は60%以上確保。							
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物の熱負荷抑制								
2 自然エネルギー利用								
2.1 自然エネルギーの直接利用								
2.2 自然エネルギーの変換利用								
3 設備システムの高効率化	照明の省エネルギー化。	ERR=44.6						
4 効率的運用								
4.1 モニタリング								
4.2 運用管理体制								
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源保護								
1.1 節水	自動水栓を使用。							
1.2 雨水利用・雑排水再利用								
1 雨水利用システム導入の有無								
2 雜排水再利システム導入の有無								
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減								
2.2 既存建築躯体等の継続使用								
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用								
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用								
2.5 持続可能な森林から産出された木材								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み								
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用								
3.2 フロン・ハロンの回避	ABC消火栓を使用。							
1 消火剤								
2 断熱材								
3 冷媒								
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮	省エネルギー設備機器を使用。							
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止								
2.2 温熱環境悪化の改善								
2.3 地域インフラへの負荷抑制								
1 雨水排水負荷低減								
2 污水処理負荷抑制								
3 交通負荷抑制	メインの道路に対し出入口を2箇所もうける。							
4 廃棄物処理負荷抑制								
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								
1 騒音								
2 振動								
3 悪臭								
3.2 風害、日照阻害の抑制								
1 風害の抑制								
2 日照阻害の抑制								
3.3 光害の抑制								
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策								